

第2章 北谷町の景観特性と課題

1. 町の概況

(1) 自然・歴史文化

1) 自然

① 位置・気象

本町は、沖縄本島中部の西海岸に位置し、北は嘉手納町、東は沖縄市・北中城村、南は宜野湾市に接し、西部は全面が東シナ海に面しています。東西約 4.3 km、南北約 5.9 km でほぼ長方形をなし、総面積は 13.78 km² となっています。

気候は亜熱帯海洋性気候に属し、年間平均気温は 22.7℃、年間平均相対湿度は 75% となっています。年間平均降水量は 2,066.7mm/年で、年間を通じて一定量の降雨がみられます。

② 地形

本町の地形は、町西部の東シナ海に沿った海岸低地と標高 40～120m のなだらかな台地・段丘、丘陵の発達する東部から構成され、本町でもっと高い標高は玉上の東 (123m) となっています。

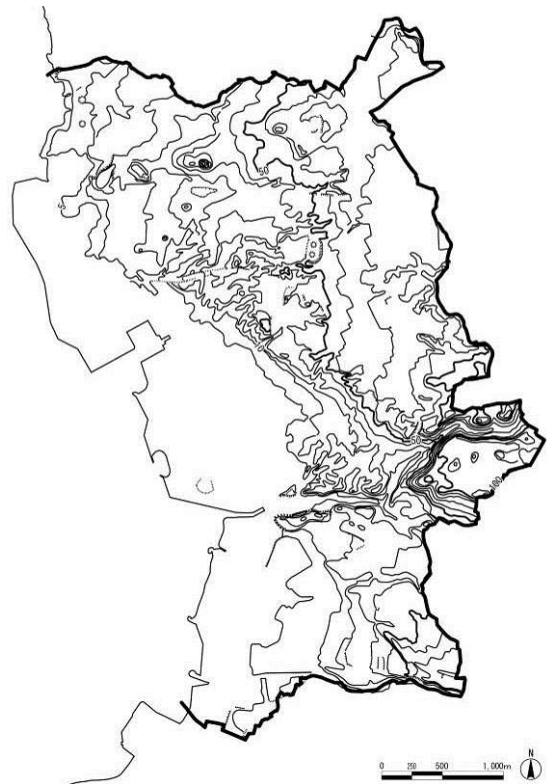
台地面は西の海岸低地に向かって階段状に低くなる海岸段丘をなしており、中位段丘上位面の縁辺部に位置する吉原や玉上などでは石灰岩が 40～60 度の急傾斜を形成するところがあります。丘陵は高度的に台地よりも低い位置にあり、起伏に富む地形を呈しています。白比川や普天間川の中・上流の丘陵地域は浅い谷からなり、谷底低地とそれに続く傾斜面が発達しています。

海岸部はサンゴ礁が発達しているものの、海岸部の大部分は埋め立て等により造成されています。自然海浜は、現在、砂辺海岸の一部しか残っていませんが、ダイビングやサーフィン等のマリンスポーツを楽しむ場所として知られています。

③ 水系

本町を流れる主な河川は、沖縄市、北中城村及び宜野湾市の上流流域から東シナ海にそそぐ白比川と普天間川 (佐阿天川) の二級河川と、白比川の支流である新川があります。

■ 地形図



④ 植生

本町の植生は、沖縄戦による破壊、戦後の米軍基地整備や住宅開発に伴う伐採などの影響により、大部分がナガミボチョウジ-ヤブニッケイ群落やリュウキュウマツ群落等の二次林・低木群落、ススキなど草本植物の優占する二次草原、畑地雑草群落等の代償植生によって占められています。

現在、町内に残る自然植生は一部の御嶽や御願所、墓所、城跡などのまわりや台地斜面などに残るのみで、1998年から2001年にかけての調査結果では、浜川御嶽と長老山（キャンプ瑞慶覧内）でガジュマル-クロヨナ群集が断片的に残り、また琉球石灰岩の見られる台地や丘陵斜面地に沿ってオオバギ-アカギ群集が帯状に分布していることが確認されています。

2) 歴史文化

① 指定文化財、遺跡・拝所

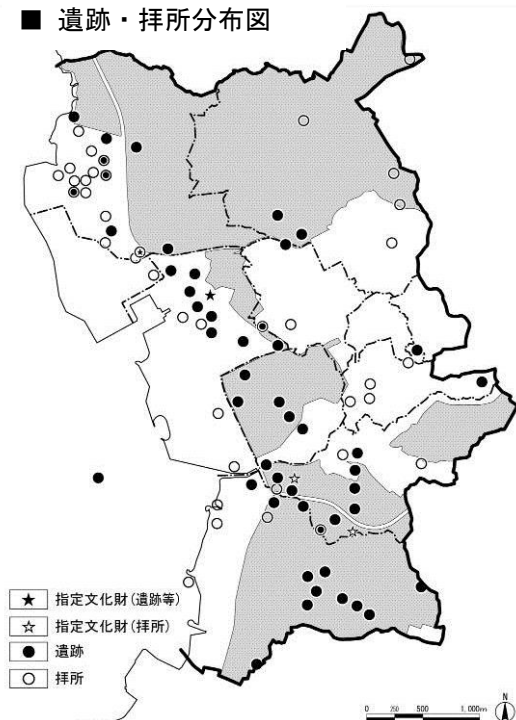
本町には、「伊礼原遺跡」が国指定文化財（史跡）に指定され、また、北谷城内「東ノ^{アグリヌ}御嶽」・「^{ウタキ}殿」・「^{トウン}ちぶ川」・「^{ガー}浜川ウガン遺跡」の4件が町指定文化財に指定されているほか、地域の伝統的な生活や信仰と結びついた多くの遺跡・拝所が分布しています。

② 古木・名木・大木

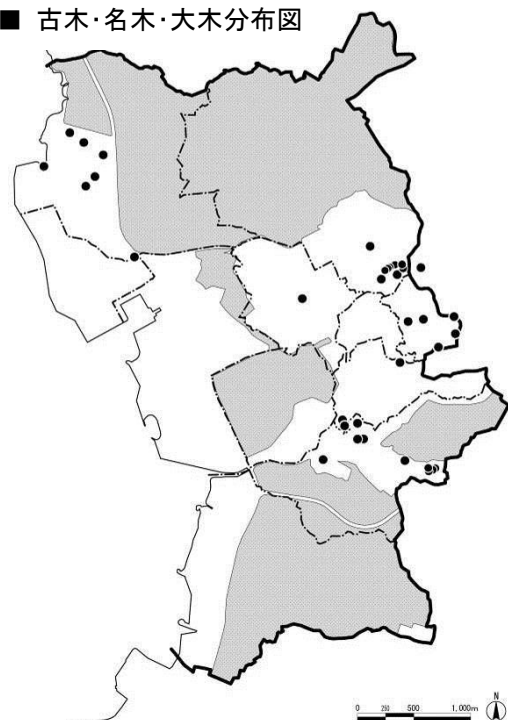
平成9年度・10年度に実施された調査の結果、ガジュマルやリュウキュウマツ、アカギなど、計73本、22樹種の古木・名木・大木があげられています。

なかでも「北谷中学校前のユーナ（オオハマボウ）」は沖縄県緑化推進委員会が取りまとめた『おきなわふるさとの名木』にあげられています。

■ 遺跡・拝所分布図



■ 古木・名木・大木分布図



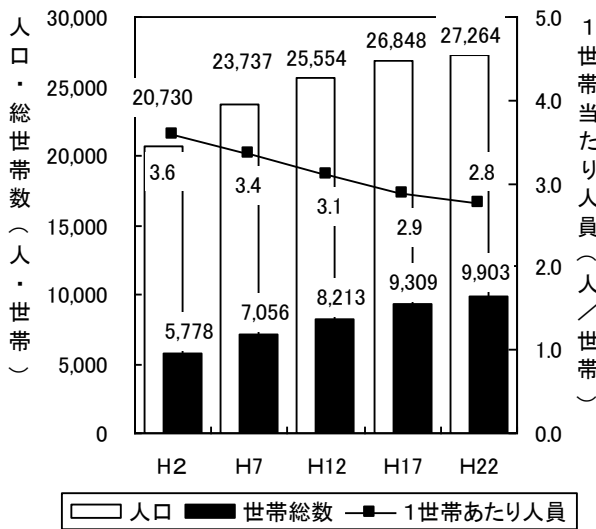
(2) 社会状況

1) 人口・世帯数

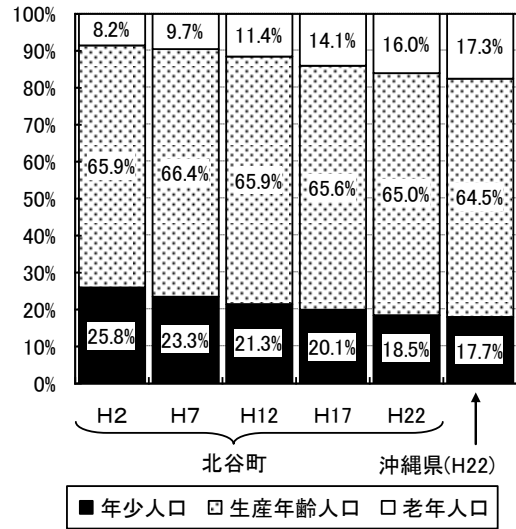
平成22年の国勢調査による本町の人口は27,264人、世帯数は9,903世帯で、平成2年以降、人口が31.5%の増加、世帯数が71.4%の増加となっています。世帯増加が人口増加を上回っていることで、一世帯あたり人員は3.6人から2.8人に減少しています。

年齢層別の人口割合は、年少人口(0~14歳)が18.5%、生産年齢人口(15~64歳)が65.0%、老年人口(65歳以上)が16.0%となっています。平成2年以降、老年人口の割合が増加、年少人口は減少を続けており、少子化・高齢化の進行がうかがえます。

■ 人口・世帯数の推移



■ 年齢3階層別人口の推移



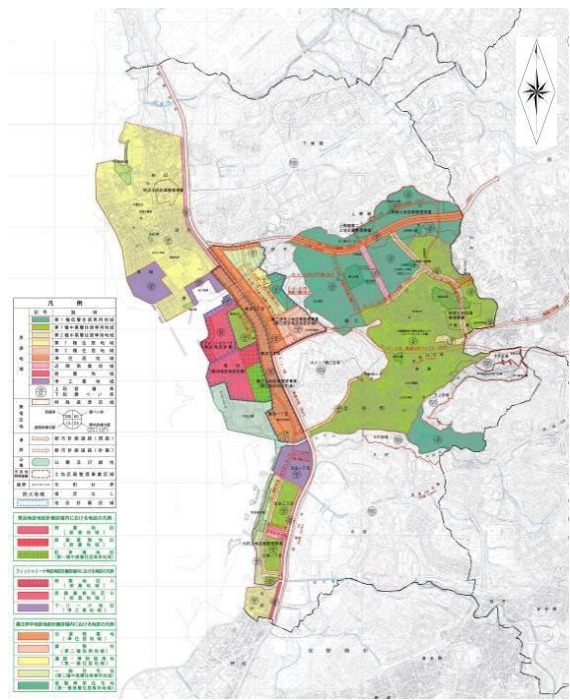
2) 土地利用・土地利用規制

本町の土地利用は、宅地や公共・公益用地等の都市的土地利用が約9割を占め、農地や山林、水面等の自然的土地利用が約1割となっています。また、都市的土地利用のうち、軍用地を含むその他の公益施設用地が町土の5割以上を占めています。

土地利用規制の現状をみると、町全域が都市計画区域となっており、軍用地を除くほぼ全域で用途地域が指定され、うち住居系用途地域が約9割を占めています。

また、町面積の1割弱が森林地域に指定されているほか、急傾斜地崩壊危険区域や海岸保全区域などが指定されています。

■ 都市計画図



3) 道路、公園・緑地

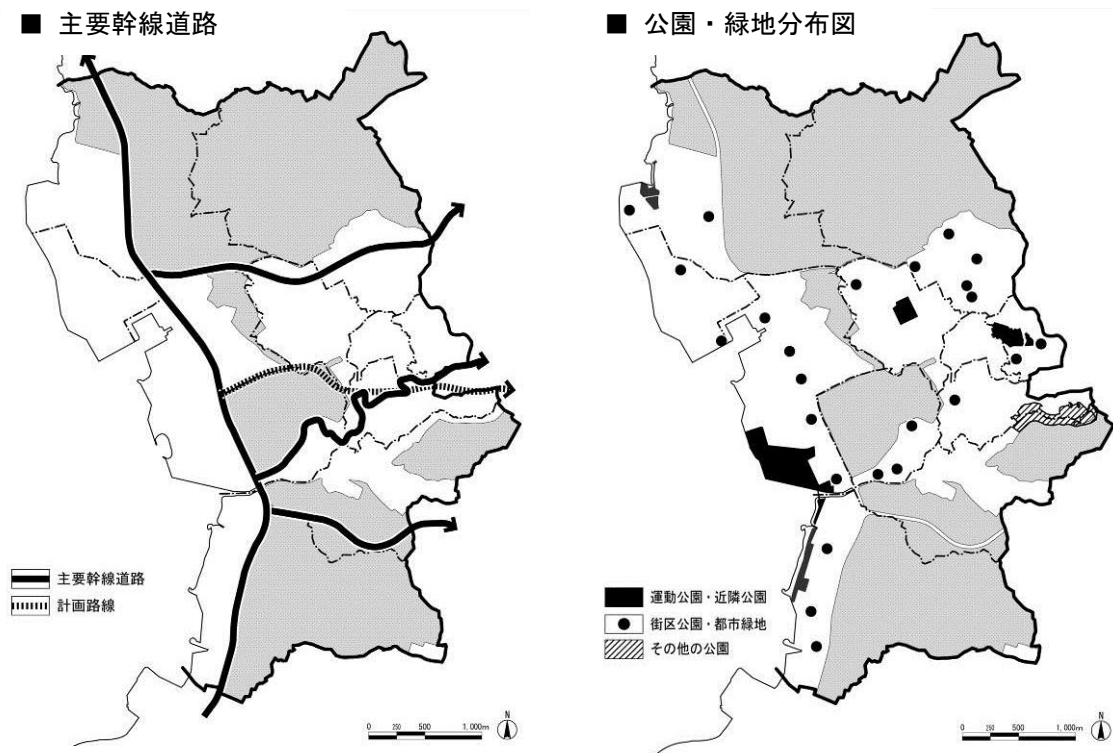
① 道路

本町の道路網は国道1路線、県道3路線、町道364路線で構成されており、主な幹線道路は西海岸側を南北に走る国道58号と、町を東西に走る県道沖縄北谷線、県道24号線、県道130号線の4路線となっています。また、現在、県道24号線バイパスの整備が進められています。

② 公園・緑地

都市公園・緑地については、合計30箇所、49.80haが整備されています。

1人あたり都市公園面積は約17.5㎡/人で、県平均(約9.8㎡/人)と比べて高い水準にありますが、北玉区、謝苺区などで身近な公園が不足している状況もみられます。



2. 市街地及び景観の変遷

北谷町の市街地及び景観の変遷を「戦前」、「沖縄戦～戦後」、「本土復帰～現在」の時代に区切って概観します。

◇戦前の北谷

古琉球期の北谷間切には北谷、桑江、平安山、砂辺、野国、屋良、嘉手納、山内、安仁屋の九つの村がありました。その後、間切の分割・新設に伴い山内村、安仁屋村が割かれ、七つの村となりましたが、ほぼ同時期（1660～70年代）に既存の村の分割により玉代勢、伝道、伊礼、浜川、野里の五つの村が誕生し、近世北谷間切の12の村が成立しました。

近代に入り、中部の主要幹線がほぼ整備された段階で、1922年に県営鉄道の嘉手納線が開通、嘉手納駅のある北谷村は中頭郡における鉄道輸送の起点として経済活動の拠点となりました。

産業の面では沖縄本島有数の水田地帯であり、北谷、玉代勢、伝道あたりに広がる田は「北谷ターブクワ」と呼ばれ、県下三大美田の一つに数えられるほどでした。また、1880年代にはほとんど行われていなかったサトウキビの栽培が、1903年の土地整理事業後急速に増大し、1912年には嘉手納に製糖工場が設置されました。

このころの北谷は、鉄道が走る島内交通の中心地でありながら、一方では田んぼやサトウキビ畑等の農村風景が広がる村でした。



交通の中心 嘉手納駅(1934年頃)

◇沖縄戦～戦後の北谷

1938（昭和13）年に国家総動員令が出され、北谷のような農村では労働力が不足し、ますます疲弊していきます。1945（昭和20）年4月、米軍の上陸地点の一つであった北谷の村民は、具志川市や宜野座村、金武町まで非難を余儀なくされ、壊滅的な戦禍を被りました。

戦後、1947（昭和22）年になって、村民の帰村が許されましたが、平坦地の集落域や農地の大半は基地として使用されていたため、斜面地や谷間・湿地などでの居住を強いられました。西海岸の低地一帯の「北谷ターブクワ」と呼ばれた県下に知られた美田はことごとく米軍用地として接收され、戦前の農村風景は失われ、周囲を米軍基地に囲まれた基地の町として知られるようになりました。1948（昭和23）年には嘉手納飛行場の大幅な拡大により村が二分されたため、野国、野里、屋良、嘉手納地域が嘉手納村として分村しました。現在でも町域の5割以上が米軍基地として占有されています。



終戦初期の謝苜

◇本土復帰～現在の北谷

復帰前後からは幹線道路の整備や公有水面の埋め立て、山間地の宅地開発等を経て村は発展し、1970（昭和 55）年には町制を施行、同時に行政区を 10 行政区に再編しました。

昭和 56 年にはハンビー飛行場とメイモスカラー地区が返還され、西海岸沿いの基盤整備が本格化しました。

特にハンビー地域は、平成 2 年のショッピングセンターの完成をはじめ、区画整理が終わった平成 3 年頃から急速に商業地域として発展を遂げ、現在も、週末のナイトフリーマーケットには多くの地元・観光客が訪れるなど賑わいを見せています。また、近隣の安良波公園にはビーチをはじめ、19 世紀にこの地に漂着したインディアン・オーク号を模した遊具や野外ステージ、バスケットコート、遊歩道等が整備され、町民をはじめ多くの利用者が訪れています。

桑江地先公有水面埋立事業によって美浜地区が誕生し、ハンビー、宮城・砂辺西海岸一帯では C・C・Z（コースタル・コミュニティー・ゾーン）整備計画によって、護岸や公園の整備が行われました。同時にアメリカンビレッジ構想による、沖縄とアメリカの文化と融合した特色あるリゾート開発によって、レジャー・娯楽施設、レストラン、ショッピングセンター等が立ち並び、北谷町を代表する商業・リゾート地区が形成されています。

北谷公園には、海邦国体会場にも使用されたソフトボール場をはじめビーチ、陸上競技場、屋外プール、テニスコート、野球場、屋内運動場等が整備されており、町民だけでなくプロ野球中日ドラゴンズのキャンプや実業団等にも利用されています。また、美浜ハイツの整備では建築協定を導入し、伝統的な屋根瓦を積極的に設け、様々な植栽を施した緑道を整備するなど、まちなみ景観形成に配慮した住宅街の整備が行われています。



埋立前の桑江海岸



アメリカンビレッジ



美浜ハイツ

3. 景観特性と課題

北谷町の景観の現状や変遷、町民からの意見等を踏まえ、景観の特性と課題を「自然景観」、「歴史・文化的景観」、「市街地景観」、「眺望景観」の4つの視点から整理しました。

(1) 自然景観の特性と課題

1) 緑地・樹木

◇新川地域や北玉地域をはじめとする斜面地や河川沿いを中心にまとまって残る自然性の高い緑地は、本町において緑の骨格として重要な景観要素となっています。しかしながら、近年の宅地開発等により町内の緑は減少傾向にあることから、骨格的な緑の保全・育成を図る必要があります。

◇町内には北谷中学校前のガジュマルやオオハマボウをはじめとした多くの名木・古木等があり、地域住民の誇りや愛着と結びついた重要な景観資源となっているものも多いことから、その保存・育成と適切な管理が求められます。



斜面緑地(北玉区)



北谷中学校前のガジュマル等

2) 河川・海岸

◇白比川とその支流である新川が本町の骨格を形成する河川となっています。

◇本町の海岸線は埋立てや海岸整備事業が進み、自然海岸は極めて少ない状況にあります。アラハビーチやサンセットビーチ、宮城海岸においてはダイビングやサーフィンなどのマリンスポーツ・レジャーが盛んであり、中南部圏域を代表する水辺景観となっています。

◇一方で、町民の多くは河川・海岸の緑が少ないと感じています。このため、海岸一帯の緑化の充実等による町民・来訪者に親しまれる景観づくりや、河川における親水性の創出、良好な水辺景観づくりが求められます。

◇また、海岸部ではゴミが廃棄され、景観を阻害している状況もみられます。町民や来訪者等の意識向上に向けた取り組みや清掃・美化活動の促進を図りながら、適切に維持管理していくことが必要です。



白比川



アラハビーチ



宮城海岸

(2) 歴史・文化的景観の特性と課題

- ◇本町は、国指定文化財である伊礼原遺跡や東ノ御嶽などの町指定文化財を含む北谷城遺跡群、浜川ウガン遺跡など、数多くの歴史・文化資源を有しています。これら町内の歴史・文化資源の調査、保存・整備を進め、歴史・文化的景観の向上を図る必要があります。
- ◇また、本町においては、現在、軍用地内に存する遺跡・拝所も多く、それらの遺跡・拝所等の適切な保存・継承を図るため、関係機関との連携による態勢整備が求められます。
- ◇町内に点在する湧水については、暮らしに根付いた歴史・文化資源であるとともに、地域の水辺景観を創出する資源としても重要であることから、その保全・整備と活用を図る必要があります。
- ◇獅子舞や綱引き、各区の祭りやエイサーなど、本町の伝統行事の継承・発展を図り、歴史・文化的景観の向上等に結びつけることが求められます。



北谷城遺跡群



浜川ウガン遺跡



トウバルガー

(3) 市街地景観の特性と課題

1) 市街地

① 住宅地

- ◇本町の住宅地は、道路等が一定整っている既成住宅地と東部地域や北部地域の一部に広がる基盤が整っていない住宅地に大別されます。また、一部で新たな外人住宅の建設が急速に進み、特徴的な景観が形成されている地区もみられます。
- ◇そうした中、町民からは建築物の統一感が無いことや住宅の緑が少ないといった意見が多くあげられています。美浜ハイツや美浜ハイツⅡなど、地区計画や建築協定により緑豊かで潤いのある市街地景観が形成されている地区もありますが、町域の一部にとどまっており、今後その他の市街地における良好な景観づくりに向けたルールづくりが求められます。
- ◇とりわけ西部地域や南部地域を中心に集合住宅等の中高層建築物が増加し、周辺の低層住宅との不調和や眺望の阻害等の問題が起きていることから、その対策が求められています。



北谷三カ村大綱引



既成住宅地



美浜ハイツⅡ

◇東部地域等の基盤が整っていない住宅地は、防災上、住環境上の課題を抱えているものの、変化に富む地形や地区内に残された緑や農地、ヒューマンスケールの生活道路などが織りなす特徴的で親密感のある景観を評価する意見もみられます。こうした景観の良さを活かしながら住環境改善を図ることが求められます。



中高層建築物が増加する西部地域

② 商業・業務地、工業地等

◇本町西海岸のアメリカンビレッジを中心とした商業・レクリエーションゾーンは本町を代表する個性的で魅力ある景観となっています。とりわけアメリカンビレッジ地区では、明確なコンセプトのもとでの建築物等の規制・誘導や緑化、サイン整備、夜間景観の演出等が行われています。



東部地域の基盤未整備住宅地

◇北前区や砂辺区の国道58号沿道商業・業務空間についても、アメリカ文化の影響を受けた特徴的な景観がみられますが、現状では雑然とした雰囲気となっている箇所も多い状況です。今後、個性を活かしつつ魅力を高めていくための建築物等に関するルールづくりを図ることが求められます。



アメリカンビレッジ

◇工業地や漁港地においては、事業者等との連携・協力のもとで敷地内の緑化を図るなど、潤いある良好な景観形成を図ることが求められます。



アメリカンビレッジの夜間景観

③ 新市街地

◇現在、桑江伊平土地区画整理事業やフィッシャリーナ地区の整備が進められており、また返還が予定されているキャンプ桑江南側地区においても市街地整備の計画づくりが進められています。これらの新市街地では住民参加のもとで良好な景観形成に向けた積極的な取り組みを図り、町における良好な景観形成を図る上での先導的な役割を果たすことが期待されます。



国道58号沿道の商業・業務地

2) 都市公園等

◇本町の都市公園・緑地は合計30箇所が整備され、面的には高い水準にあるものの、一部身近な公園が不足している箇所もみられます。

◇市街地における緑とのふれあい、良好な眺望の確保など、市街地景観の質的向上に向けた都市公園等の



北谷公園

役割は大きいことから、その適正配置を進める必要があります。

- ◇また、既存の都市公園等においても、植栽等の更なる質的向上と公園施設等の適切な維持管理を進める必要があります。

3) 公共公益施設

- ◇公共公益施設は比較的規模が大きい場合が多く、また、多くの町民が利用する場でもあることから、景観に充分配慮した公共公益施設の整備は町民の景観まちづくりに対する意識高揚に資するなど、町の良好な景観形成を先導する重要な役割を担っています。
- ◇本町では、ちやたんニライセンターにおいて赤瓦屋根の採用や敷地内緑化を行うなど、景観に配慮した公共公益施設の整備に取り組んでいます。
- ◇一方で、地域では公民館等の緑化など、潤いのある景観づくりに向けた主体的な取り組みが行われている例もみられます。
- ◇公共施設の整備にあたっては、今後とも景観に充分配慮するとともに、既存公共施設の緑化による潤いのある景観づくりを進める必要があります。また、町民による主体的な取り組みを促進することが求められます。

4) 道路

- ◇骨格的な道路網は、国道 58 号、県道沖縄北谷線、県道 24 号線、県道 130 号線で構成されており、これらの幹線道路は県道 24 号線を除き大部分が緑化され、潤いある市街地景観の形成に資するものとなっています。
- ◇一方で、身近な生活道路である町道については一定緑化がなされているものの、町民からは緑化に対する要望が多くあげられています。潤いある市街地景観を形成し、連続する緑の帯を形成するためにも、路線毎の状況（幅員等）に応じた町道の更なる緑化推進が求められます。
- ◇また、街路樹の適切な維持管理に関する意見も多くあげられています。地域住民との連携・協働による維持管理方策の検討を含め、街路樹の適切な維持管理を図ることが求められます。



謝苺公園



ちやたんニライセンター



公民館の緑化(宮城区)



国道 58 号の植栽



県道の植栽(県道沖縄北谷線)



町道の植栽(町道上勢桃原線)

(4) 眺望景観等の特性と課題

◇北谷町は東部から西部の海岸低地に向かって低くなる地形となっており、眺望の開ける箇所が数箇所みられます。とりわけ桃原公園展望台や謝苺公園は町域や西海岸が一望できる優れた眺望点（視点場）となっており、これらの良好な眺望点の適切な維持管理を図る必要があります。

◇本町のランドマークとしては、アメリカンビレッジの観覧車があげられるほか、重要な歴史・文化資源である北谷城遺跡群や浜川ウガン遺跡の緑は国道 58 号や県道沖縄北谷線からのアイストップともなっています。



桃原公園からの眺望



謝苺公園からの眺望



アメリカンビレッジの観覧車



北谷城遺跡群



浜川ウガン遺跡

■ 景観特性・課題図

